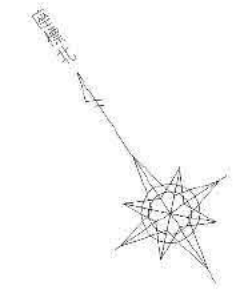
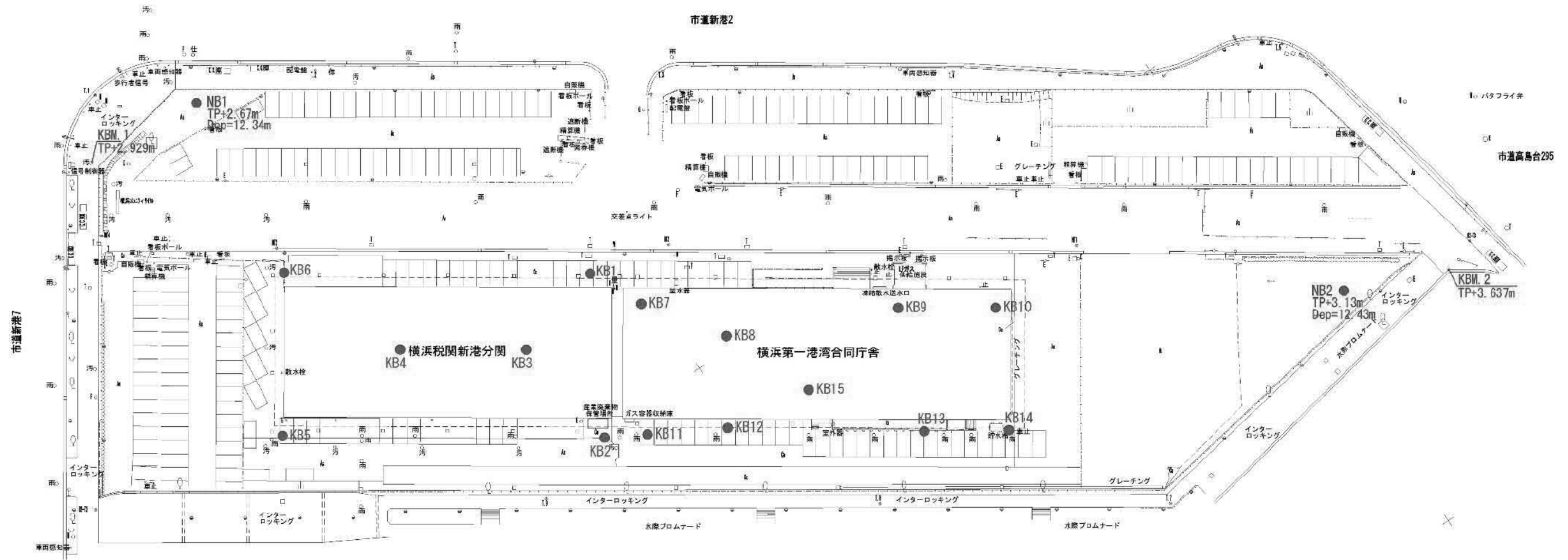


ボーリング調査位置図



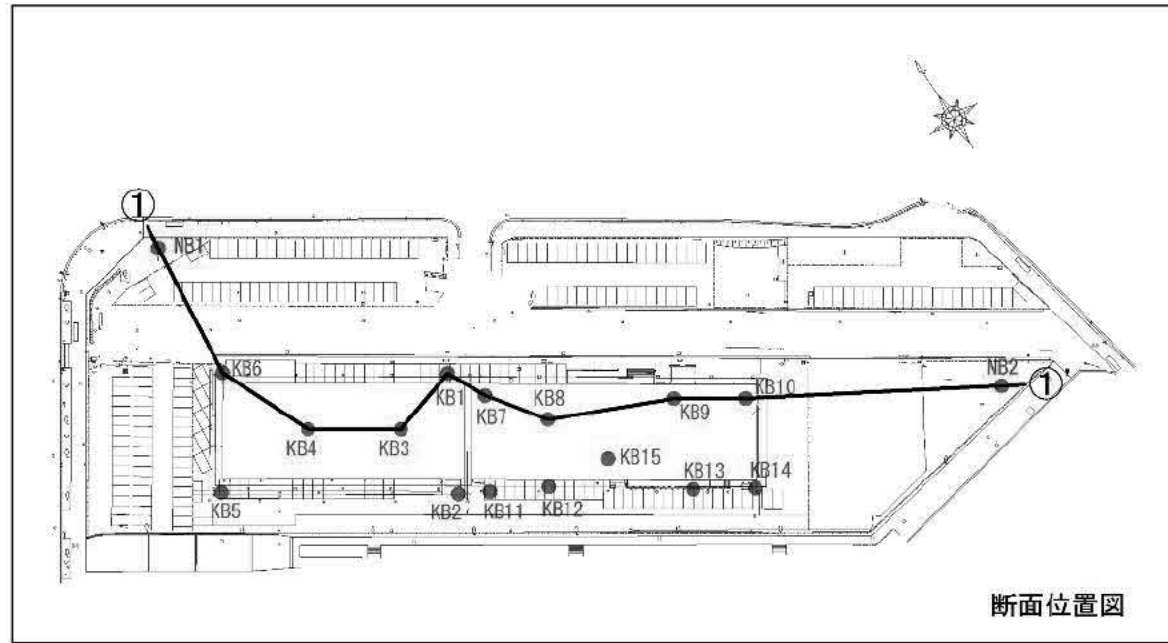
縮尺=1 : 800 (A3)



地点	X	Y
NB1	-60707.716	-17550.488
NB2	-60853.875	-17392.609

※既往資料の調査位置は特記仕様書を参考に作成

※既往資料は KB-1~KB6 地点は「横浜税関分館庁舎敷地土質調査工事, S38年5月, ㈱鬼怒川ボーリング」
 KB7~KB15 地点は「横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査, S40年12月, 協和地下開発㈱」



地質層序表

時代	地層名	土質区分	記号
第四紀	埋土層	粘性土層	B1
		砂質土層	B2
	沖積層	粘性土層	Ac
	更新世	上総層群星川層	砂質土層
泥岩層			HK

※既往資料は KB1～KB6 地点は「横浜税関分館庁舎敷地土質調査工事, S38年5月, ㈱鬼怒川ボーリング」
 KB7～KB15 地点は「横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査, S40年12月, 協和地下開発㈱」

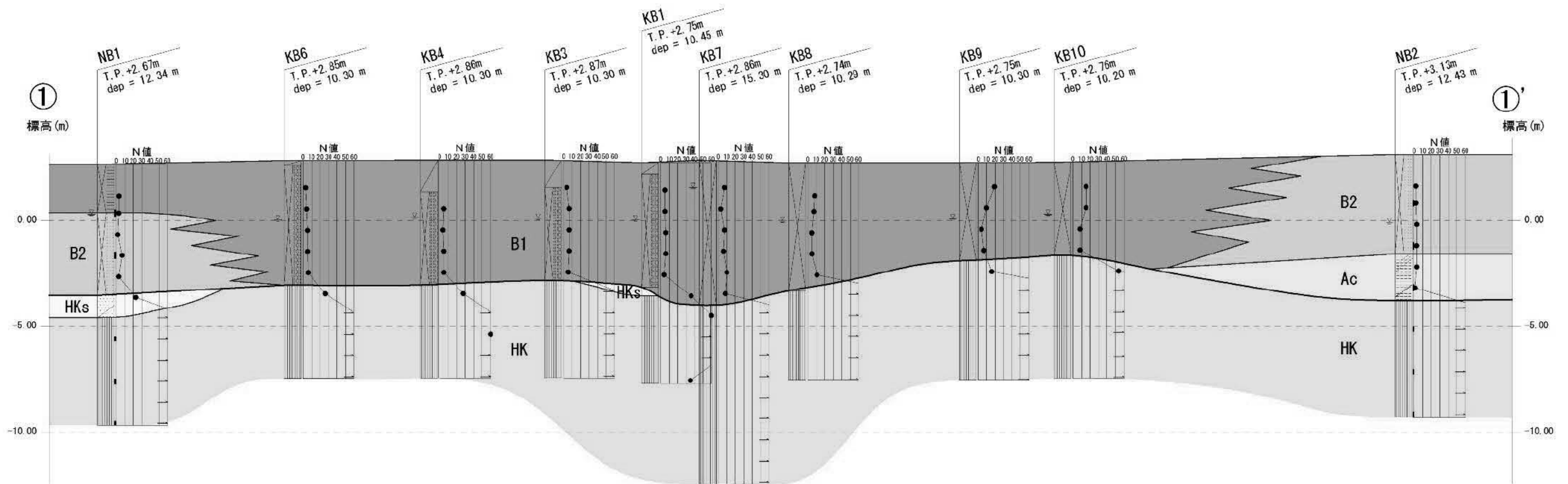
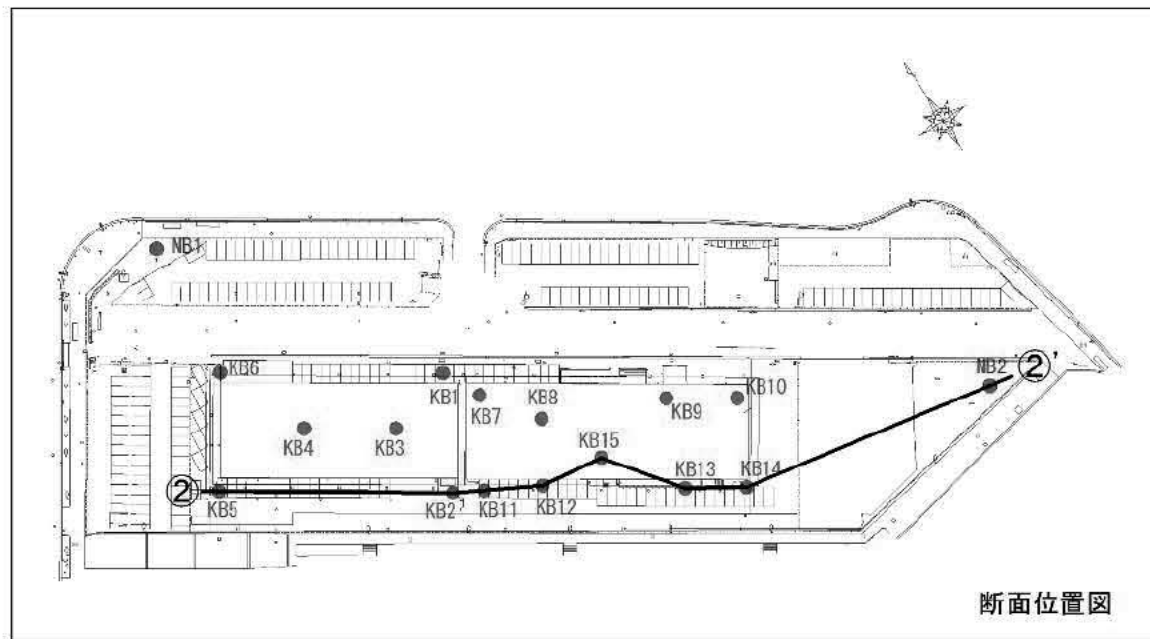


図 4.1.1 推定地層断面図 H=1:800, V=1:200



断面位置図

地質層序表

時代	地層名	土質区分	記号
第四紀	埋土層	粘性土層	B1
		砂質土層	B2
	沖積層	粘性土層	Ac
	更新世	上総層群星川層	砂質土層
泥岩層			HK

※既往資料は KB1~KB6 地点は「横浜税関分館庁舎敷地土質調査工事, S38 年 5 月, ㈱鬼怒川ボーリング」
 KB7~KB15 地点は「横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査, S40 年 12 月, 協和地下開発㈱」

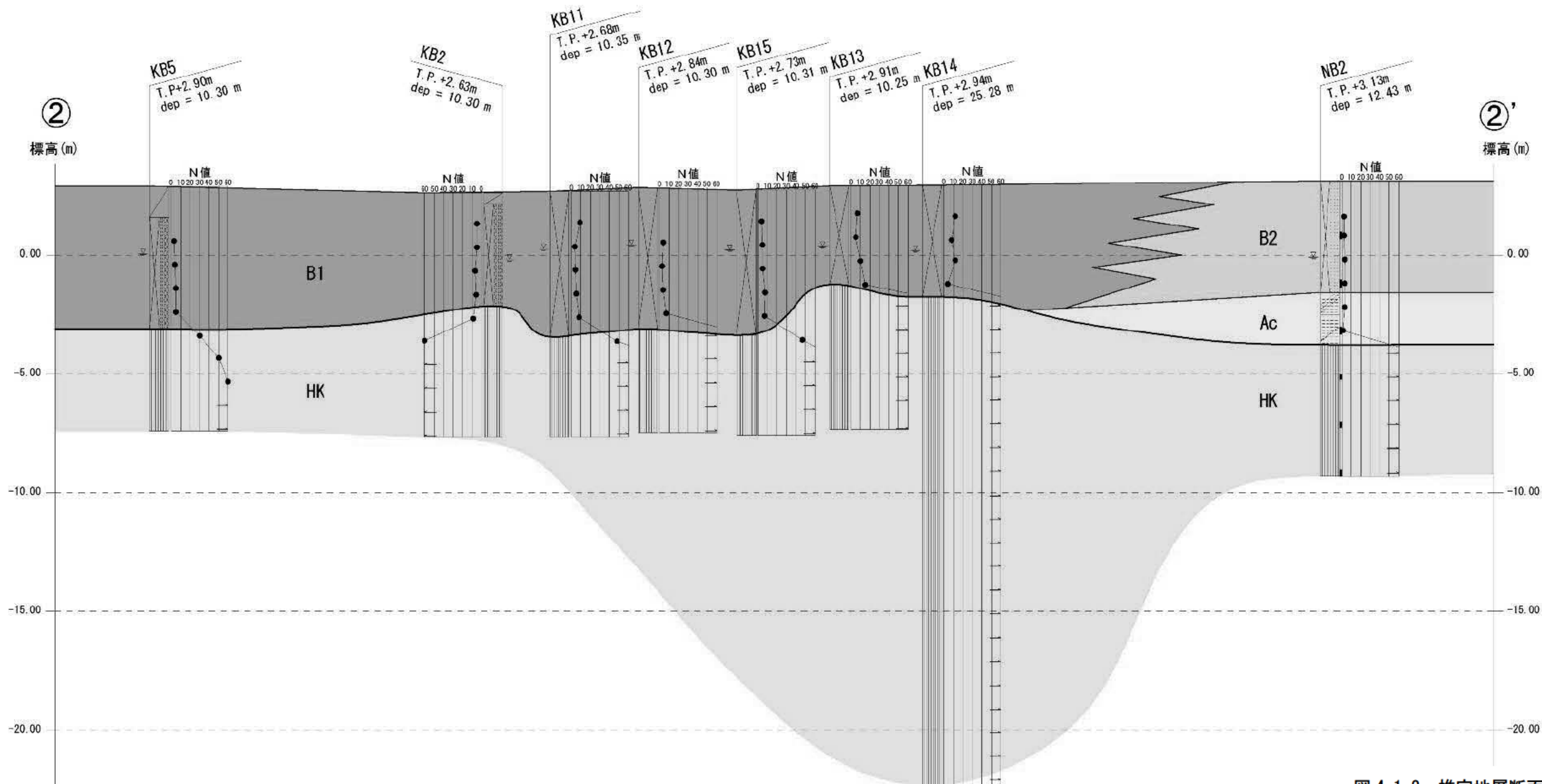
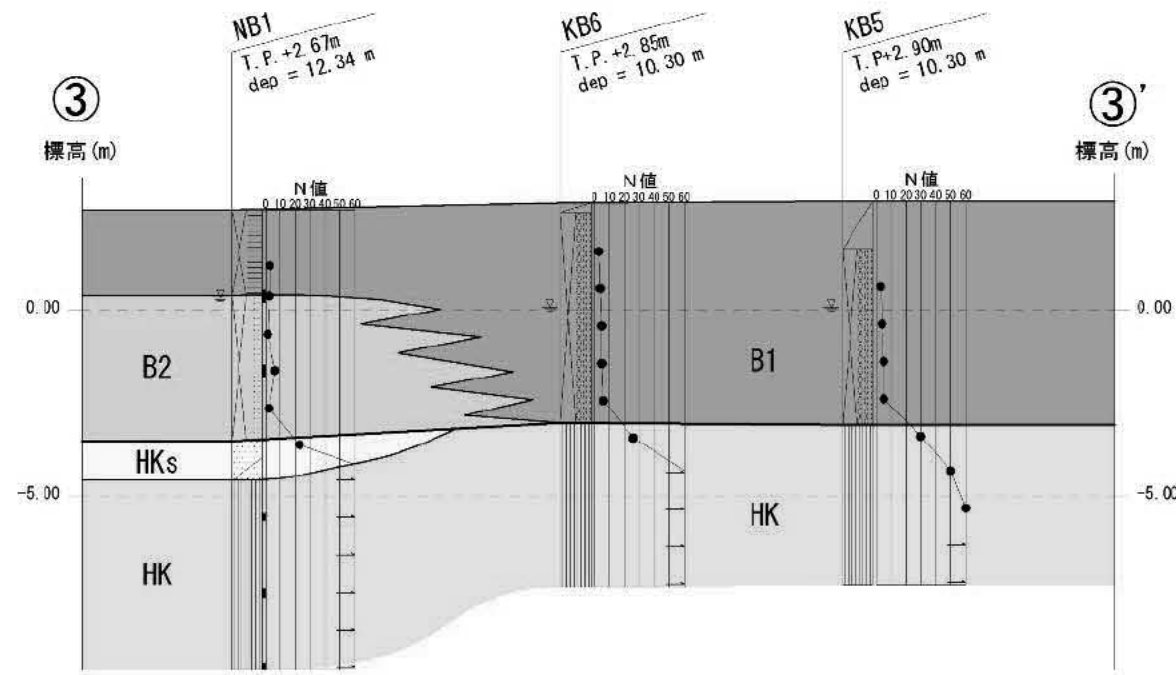
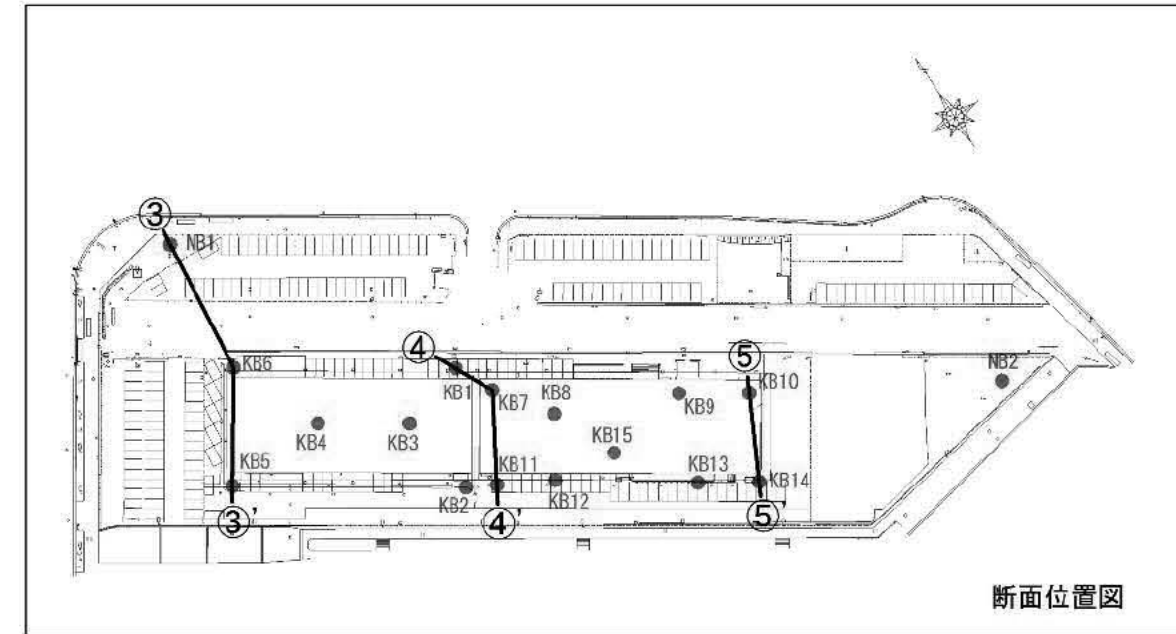


図 4.1.2 推定地層断面図 H=1:800, V=1:200

地質層序表

時代	地層名	土質区分	記号
第四紀	完新世	埋土層	粘性土層 B1
		沖積層	砂質土層 B2
	更新世	上総層群星川層	粘性土層 Ac 砂質土層 HKs 泥岩層 HK



※既往資料は KB1~KB6 地点は「横浜税関分館庁舎敷地土質調査工事, S38年5月, ㈱鬼怒川ポーリング」
KB7~KB15 地点は「横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査, S40年12月, 協和地下開発㈱」

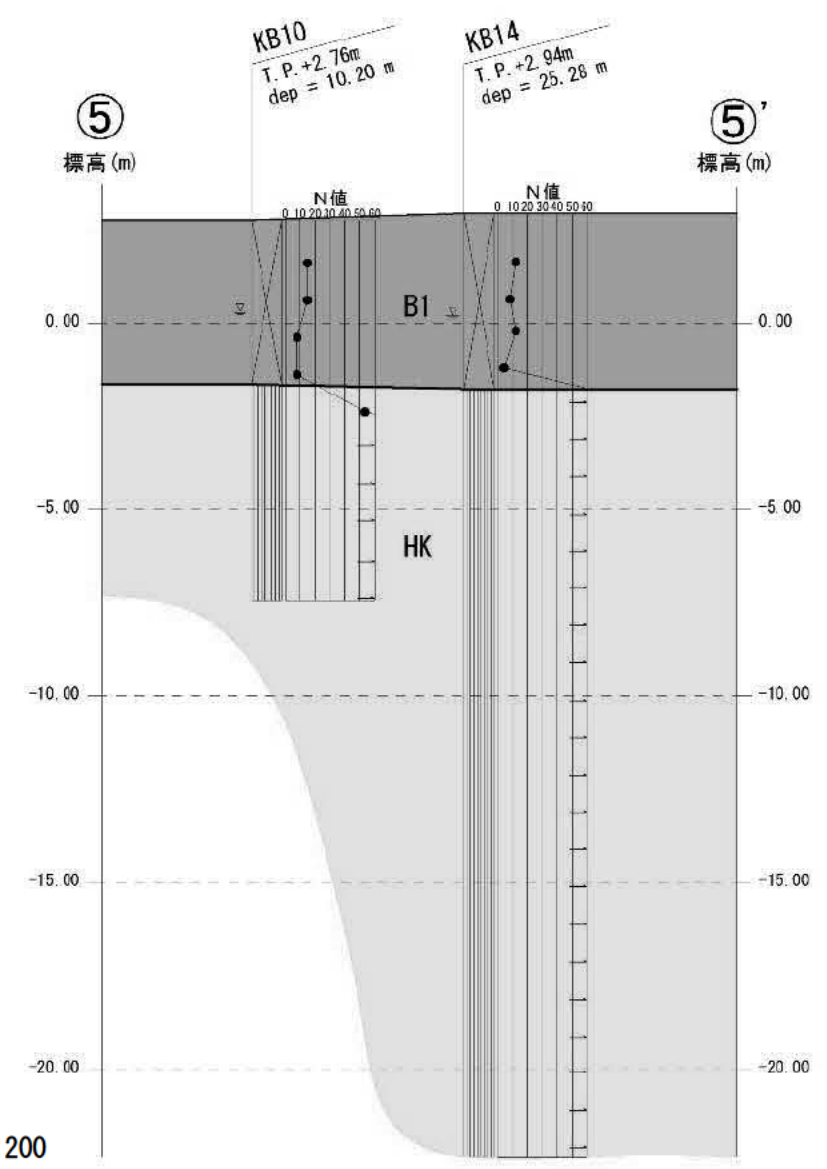
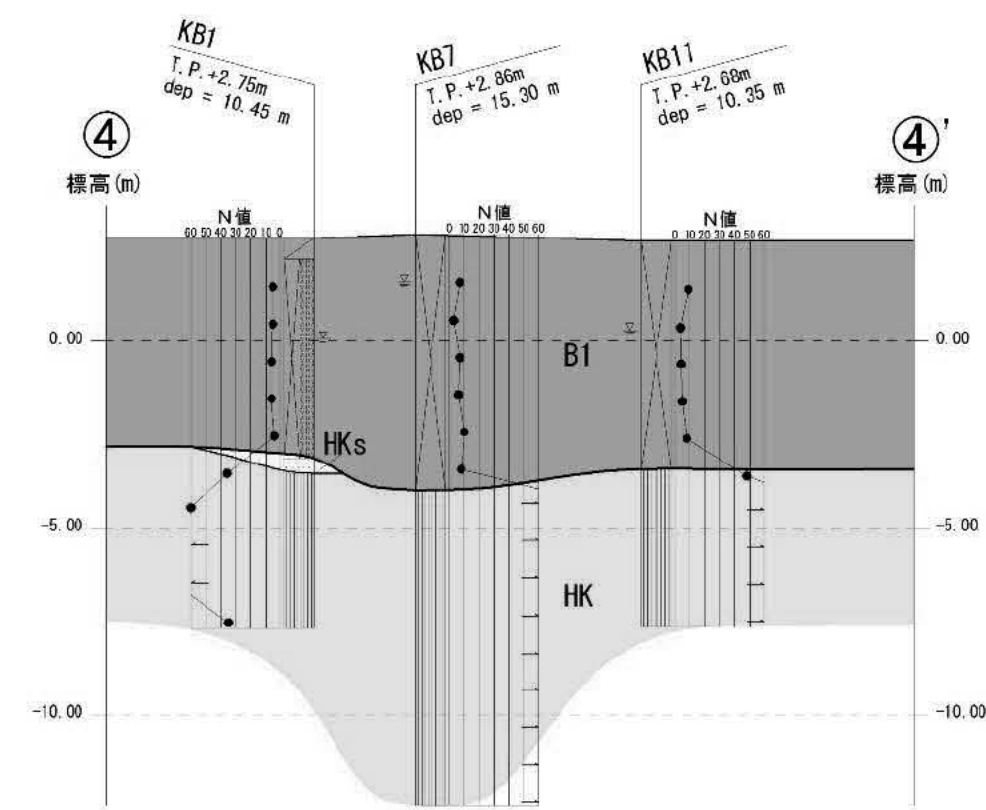
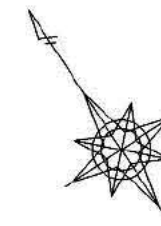


図 4.1.3 推定地層断面図 H=1:800, V=1:200



縮尺=1:800 (A3)

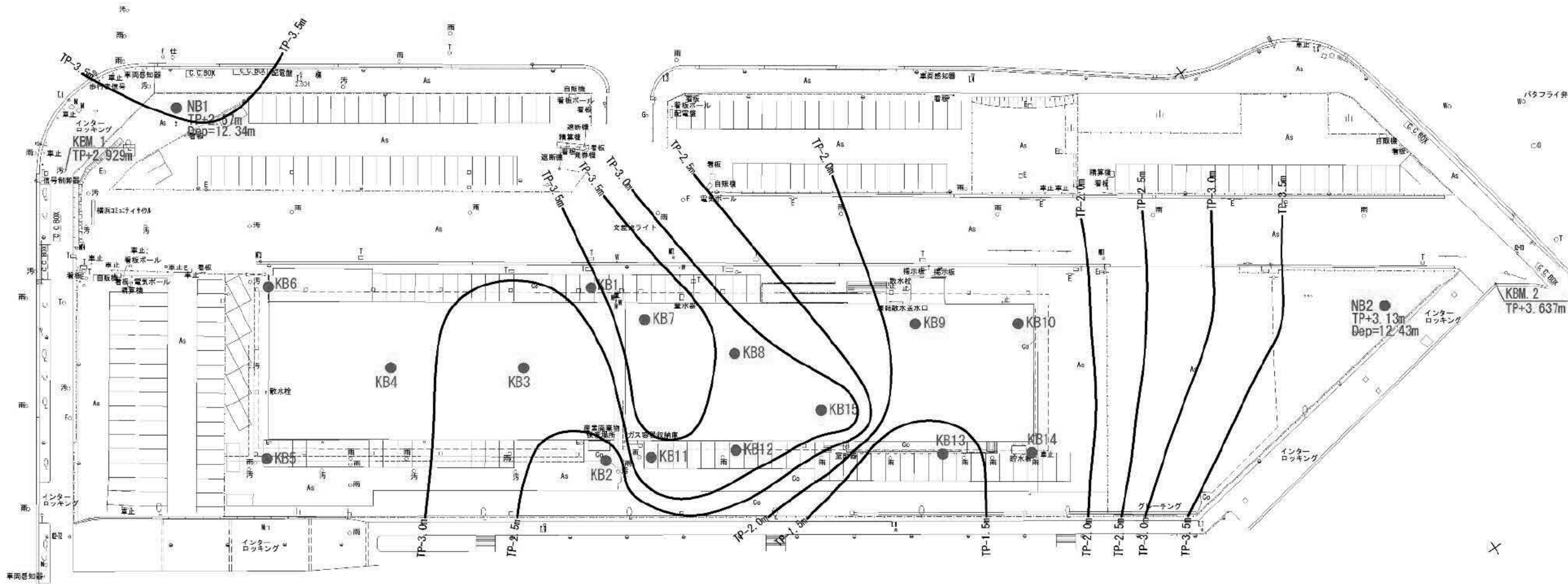


図 5.4.1 上総層群星川層 Hk 層上面の等深度線

ボーリング柱状図

調査名 横浜地方合同庁舎（仮称）（16）敷地調査

ボーリングNo																				
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	NB1		調査位置	神奈川県横浜市中区新港1-6-2				北緯	35° 27' 09.5294"							
発注機関	国土交通省関東地方整備局横浜管轄事務所				調査期間	平成 28年 10月 3日 ~ 28年 10月 6日		東経	139° 38' 23.9632"							
調査業者名	株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング 電話 (045 761 1177)		主任技師	中原 隆		現場代理人	篠崎 晴菜		コ鑑定者	吉田 充久		ボーリング責任者	小泉 義昭			
孔口標高	T.P. +2.67m	角	180° 上 90° 下		方	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南		地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°		使用機種	TOHO DO-D		ハンマー落下用具	半自動落下	
総掘進長	12.34m		度			向			エンジン	YANMAR NFD9		ポンプ	KANO V6			

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記	標準貫入試験					原位置試験 深 (m)	試験名 および結果	試料採取 深 (m)	採取 番号	室内試験 方法	掘進 月日	
									深 (m)	10cmごとの 打撃回数	0	10	20							
1				埋土 (粘性土)	暗褐			1.2mまで手掘りによる試験実施。 水位は無水掘りにより確認した自然水位。	1.35	1/13	1	1/7	3/30							
2	0.37	2.30	2.30	埋土 (砂質土)	暗褐			0.05mまでアスファルト、 0.40mまで碎石、 0.42mまでアスファルト、 0.46mまで石板、 1.0mまでレンガ片、アスファルト及び びンクート塊を多量混入する。 φ100mm程度の玉石有り、 2m付近まで泥岩片を混入する粘性土 主体である。	1.65	1/14	1	1/9	3/33			2.15	I-P1	①	細粒分	
3				埋土 (砂質土)	暗褐			泥岩片を混入する砂質土主体である。 また、礫を所々に混入する。 泥水の透水著しい。	2.48	1/18	1	1/18	2/37			2.48				
4				シルト混じり 細砂	暗灰			全体にシルトを混入する。 粒子均一な細砂である。 部分的に半固結状である。 含水少。	3.15	1/19	1	1/18	2/37							
5				泥岩	暗灰			全体に少量の砂分を混入する。 所々に粒子均一な細砂をブロック状 に混入する。 9m試料、浮石を混入する。 12m試料、細砂を挟む。	3.52	2	2/12	3	7/32			4.15	I-P2	①	細粒分	
6	3.53	3.90	6.20						4.15	1	1/8	1/17	3/35			4.47				
7	4.58	1.05	7.25						5.15	3	9	11	23/30			6.45	I-P3	①	細粒分	
8									5.50	21	39	60	60/20			6.45	I-P4	①	細粒分	
9									6.15	30	30	9	60/19			8.15	I-P5	①	細粒分	
10									6.45	17	36	7/2	60/22			8.34				
11									7.15	22	25	13/4	60/24			10.15	I-P6	①	細粒分	
12	9.67	5.09	12.34						7.35	24	33	3/1	60/21			10.39				
									8.15	13	47	9	60/19			12.15	I-P7	①	細粒分	
									8.34							12.34				

ボーリング柱状図

調査名 横浜地方合同庁舎（仮称）（16）敷地調査

ボーリングNo											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	NB2		調査位置	神奈川県横浜市中央区新港1-6-2			北緯	35° 27' 04.7965"				
発注機関	国土交通省関東地方整備局横浜営繕事務所			調査期間	平成 28年 10月 7日 ~ 28年 10月 12日		東経	139° 38' 30.2358"				
調査業者名	株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング 電話 (045 761 1177)		主任技師	中原 隆	現場代理人	篠崎 晴菜	コ鑑定者	吉田 充久	ボーリング責任者	小泉 義昭		
孔口標高	T. P. +3.13m	角	180° 上 90° 下	方	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 0° 水平 0°	使用機種	試錐機	TOHO DO-D	ハンマー	半自動落下
総掘進長	12.43m	度	0°	向				エンジン	YANMAR NFD9	ポンプ	KANO V6	

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対稠度	相対密度	記事	標準貫入試験				原位置試験	試料採取	室内試験	掘進月日	
									深さ (m)	10cmごとの打撃回数 (0, 10, 20)	打撃回数 / 貫入量 (cm)	貫入量 (cm)					深さ (m)
1				埋土 (砂質土)	暗褐色			1.2mまで手振りによる試験実施。水位は無水振りにより確認した自然水位。	10/7 3.20	1.35	1/16	1/14	2/30				
2				砂質シルト	暗灰	軟らかい		1m付近まで玉石、コンクリートガラ、レンガ片等を混入する。玉石はφ100mm程度。少量の透水有り。2m試料、砂質土主体。3m試料、暗褐色を呈する泥岩片。4.4m以深、比較的均質なシルト質細砂で貝殻片を混入する。		1.65	1/17	1/13	2/30				
3				砂質シルト	暗灰	非常に軟らかい		全体に砂を少量混入する。少量の貝殻片を混入する。粘性弱。含水大。		2.45	1	1	1/11	3/31			
4	1.57	4.70	4.70	砂質シルト	暗灰					3.15	1	1	1/11	3/31			
5	2.53	0.95	5.65	砂質シルト	暗灰					3.46	1	1	1/11	3/31			
6				砂質シルト	暗灰					4.15	1	1	1/11	3/31			
7	3.77	1.25	6.90	砂質シルト	暗灰					4.48	1	1	1/11	3/31			
8				泥岩	暗灰			全体に少量の砂分を混入する。所々に粒子均一な細砂を薄層状に挟む。8m試料、上部シルト質細砂を挟む。10m試料、浮石を挟む。		5.15	1	1	1/11	3/31			
9										5.48	1	1	1/11	3/31			
10										6.15	1	1	1/11	3/31			
11										6.45	1	1	1/11	3/31			
12	9.30	5.53	12.43							7.15	23	30	7/2	60/22			
										7.37	17	34	9/2	60/22			
										8.15	25	31	4/1	60/21			
										8.37	17	28	15/4	60/24			
										9.15	21	29	10/3	60/23			
										9.36	14	21	25/8	60/28			
										10.15	17	28	15/4	60/24			
										10.39	21	29	10/3	60/23			
										11.15	14	21	25/8	60/28			
										11.38	17	28	15/4	60/24			
										12.15	14	21	25/8	60/28			
										12.43	17	28	15/4	60/24			

ボーリング柱状図

調査名 横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査

ボーリングNo																				
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 1		調査位置	神奈川県横浜市中区新港町				北緯	
発注機関	建設省関東地方建設局営繕部				調査期間	昭和40年11月30日～40年12月1日		東経	
調査業者名	協和地下開発株式会社 電話		主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者		山中	
孔口標高	H=+0.19m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用試験機	BRS
総掘進長	15.30m	度		向				ハンマー 落下用具	ポンプ
								エンジン	

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記述	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験				N 値	原位置試験 深 (m)	試験名 および結果	試料採取 深度 (m)	採取 番号	室内試験 方法	掘進 月日	
										深 (m)	10cmごとの 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	0								10
1				埋土				ローム、粘土、土丹片、玉石、その他 所々、コンクリートあり 2.0m附近より下部は殆ど礫、頁岩片 より占められる	1.30	1.15	2	2	3	7/30							
2									1.45	2.15	1	1	1/12	3/32							
3									2.47	3.15	2	2	3	7/30							
4									3.45	4.15	2	2	2	6/30							
5									4.45	5.15	2	4	4	10/30							
6									5.45	6.15	2	2	4	8/30							
7	-6.66	6.85	6.85						6.45	7.15	26	24	5	50/15							
8				固結シルト	青灰		極堅	砂、所々薄く挟む 貝殻多量混入 無機質岩粉型シルトより成る 不規則に細砂を含む	7.30	8.15	50			50/10							
9									8.25	9.15	43	7	2	50/12							
10									9.27	10.15	29	21	5	50/15							
11									10.30	11.15	26	24	8	50/18							
12									11.33	12.15	45	5	1	50/11							
13									12.26	13.15	30	20	3	50/13							
14									13.28	14.15	29	21	4	50/14							
15	-15.11	8.45	15.30						14.29	15.15	26	24	5	50/15							
									15.30												

※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

ボーリング柱状図

調査名 横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査

ボーリングNo										
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 2	調査位置	神奈川県横浜市中区新港町			北緯	
発注機関	建設省関東地方建設局営繕部			調査期間	昭和40年12月2日～40年12月2日		東経
調査業者名	協和地下開発株式会社 電話	主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者	山中	
孔口標高	H=-0.07m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°
総掘進長	10.29m	使用機種	試錐機	BRS		ハンマー 落下用具	
		エンジン			ポンプ		

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記 事	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験				N 値	原位置試験 深 度 (m)	試験名 および結果	試料採取 深 度 (m)	採取方法	室内試験 ()	掘進 月 日
										深 度 (m)	10cm ごと の打撃回数	0	10							
1			埋土					1.70mより殆ど土丹化である。	2.25	1.40	3	2	3	8/30	○					
2				1.70	2	2	3			7/30										
3				2.45	2	2	1/12			5/32										
4				3.47	1	2	2/11			5/31										
5				4.15	3	3	5			11/30										
6	-6.12	6.05		6.05	5.45	39	11/2			50/12										
7					6.27	30	20/4			50/14										
8					7.15	41	9/1			50/11										
9					7.29	34	16/3			50/13										
10	-10.36	4.24		10.29	8.15	33	17/4			50/14										
				8.26	10.15															
				9.28	10.29															
				固結シルト	青灰	極堅	砂、所々に挟む無機質岩粉型シルトより成る													

※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

ボーリング柱状図

調 査 名 横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査

ボーリングNo																				
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 3		調査位置	神奈川県横浜市中区新港町				北緯		
発注機関	建設省関東地方建設局営繕部				調査期間	昭和 40年 11月 29日 ~ 40年 11月 30日		東経		
調査業者名	協和地下開発株式会社 電話		主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者	手塚			
孔口標高	H=-0.08m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 90°	使用機種	試錐機 BRS	ハンマー 落下用具
総掘進長	10.30m	度		向				エンジン		ポンプ

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記 事	標準貫入試験				原位置試験 深 度 (m)	試験名 および結果	試料採取 深 度 (m)	採取 番号	室内試験 ()	掘進 月 日	
									深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	N 値							
									2.65										
1	0.30	0.30	砂礫 コンクリート						1.00	6	6	7	19						
2	0.45	0.75		埋土	緑灰	極強く強く 中位		土丹塊 栗石の埋土	1.30	4	3	3	10						
3									2.30	2	1	1	4						
4									3.00	2	3	2	7						
5	3.90	4.65							4.00	2	3	2	7						
6									4.30	3	3	10	16						
7									5.00	3	3	10	16						
8				固結シルト	緑灰	強く 極堅		細砂不規則に薄く挟む	5.30	32	18	1	50						
9									6.00				50						
10	5.65	10.30							6.11				50						
									7.05	50			50						
									7.15	50			50						
									8.05				50						
									8.15				50						
									8.05	50	8		50						
									9.05				50						
									9.13				50						
									10.20	50			50						
									10.30				50						

※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

ボーリング柱状図

調査名 横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査

ボーリングNo														
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 4		調査位置	神奈川県横浜市中区新港町					北緯	
発注機関	建設省関東地方建設局営繕部				調査期間	昭和 40年 11月 27日 ~ 40年 11月 28日		東経		
調査業者名	協和地下開発株式会社 電話		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	H=-0.09m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 90° 水平0°	使用機種	試錐機	
総掘進長	10.20m	度		向					ハンマー 落下用具	
									ポンプ	
									エンジン	

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対稠度	相対密度	記号	標準貫入試験				原位置試験	試験名および結果	試料採取番号	室内試験方法	掘進月日
									深さ (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	値					
1				埋土		強		栗石・砂礫・土丹礫の埋土	1.00	8	3	4	15				
2									1.30	4	5	6	15				
3									2.00	2	3	3	8				
4									2.30	2	2	4	8				
5				固結シルト		緑灰	極堅	かなり砂分多く、固結砂質シルトより成る	3.00	2	2	4	8				
6									3.30								
7									4.00								
8									4.30								
9									5.00	50			50				
10									5.28	28			28				
									6.00	50			50				
									6.10								
									7.00	50			50				
									7.15	15			15				
									8.00	50			50				
									8.08	8			8				
									9.45	50			50				
									9.20								
									10.10	50			50				
									10.20	10			10				

※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

ボーリング柱状図

調査名 横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査

ボーリングNo																				
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 5		調査位置	神奈川県横浜市中区新港町				北緯			
発注機関	建設省関東地方建設局営繕部				調査期間	昭和 40年 11月 28日 ~ 40年 11月 29日		東経			
調査業者名	協和地下開発株式会社 電話		主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者	山中				
孔口標高	H=-0.01m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機 BRS	ハンマー落下用具	
総掘進長	10.35m		度					エンジン		ポンプ	

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対稠度	相対密度	記号	標準貫入試験				N 値	原位置試験	試験名および結果	深さ (m)	採取番号	採取方法	室内試験 ()	掘進月日	
									深さ (m)	10cmごとの打撃回数	0	10									20
1				埋土				強く軟く 中位	0~0.30m間、粘土、ローム、砂、土丹、玉石、礫、その他からなる 3.90m~下部、土丹塊より成る	2.40	1.15	2	3	4	9						
2										2.40	1.45	1	1	2	4						
3										2.40	2.15	1	1	2	4						
4										2.40	2.50										
5										2.40	3.15		1	1	2						
6	-6.13	6.12	6.12							2.40	3.45		1	1	2						
7				固結シルト				堅く極堅	不規則に貝殻混じる所々、5cm位、かつ砂挟む非常に硬質	2.40	4.15	2	1	2	5						
8					青灰					2.40	4.46										
9										2.40	5.15	2	3	3	8						
10	-10.36	4.23	10.35							2.40	5.45	9	17	22	48						
										2.40	6.15	29	21	3	50						
										2.40	7.15	50			50						
										2.40	7.28				115						
										2.40	8.15	32	18	2	50						
										2.40	8.25				150						
										2.40	9.15				125						
										2.40	9.27										
										2.40	10.15	18	32		75						
										2.40	10.35										

※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

ボーリング柱状図

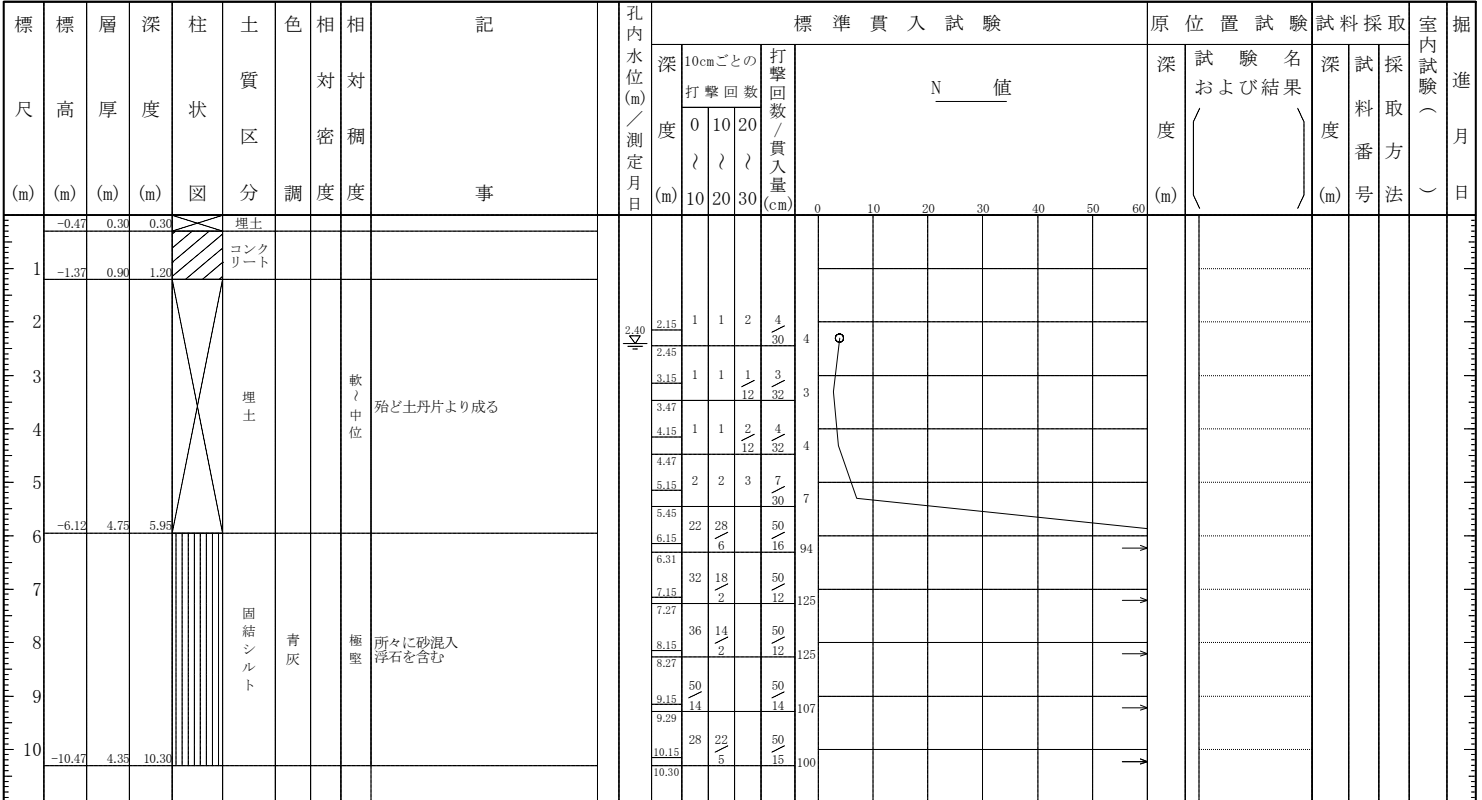
調査名 横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査

ボーリングNo																				
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 6		調査位置	神奈川県横浜市中区新港町					北緯	
発注機関	建設省関東地方建設局営繕部				調査期間	昭和40年12月4日～40年12月6日		東経		
調査業者名	協和地下開発株式会社 電話		主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者		山中		
孔口標高	H=-0.17m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機 BRS エンジン	ハンマー 落下用具 ポンプ
総掘進長	10.30m									



※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

ボーリング柱状図

調査名 横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査

ボーリングNo																				
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 7		調査位置	神奈川県横浜市中区新港町				北緯		
発注機関	建設省関東地方建設局営繕部				調査期間	昭和 40年 12月 1日 ~ 40年 12月 2日		東経		
調査業者名	協和地下開発株式会社 電話		主任技師		現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者	手塚	
孔口標高	H=-0.24m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種	試錐機 BRS エンジン	ハンマー 落下用具 ポンプ
総掘進長	10.25m									

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記 事	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験				N 値	原位置試験 深 度 (m)	試験名 および結果	試料採取 深 度 (m)	採取 番号	室内試験 ()	掘進 月 日
										深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数	0	10							
1				埋土				0.60mまで砂礫 以下、土丹塊の埋土	2.55	1.00	2	3	2	7						
2										1.30	2	2	1	5						
3										2.00	3	3	4	10						
4	-4.39	4.15	4.15							2.30	3	3	9	15						
5				固結シルト	緑灰		極堅	かなり砂がちにして固結砂質シルト 状をなす所あり 硬質である		3.00	3	3	9	15						
6										3.30	3	3	9	15						
7										3.60	3	3	9	15						
8										4.00	3	3	9	15						
9										4.30	38	12	2	50						
10	-10.49	6.10	10.25							5.00	50			50						
										5.12	50			50						
										6.00	50			50						
										6.10	50			50						
										7.00	50			50						
										7.10	50			50						
										8.00	50			50						
										8.08	50			50						
										9.00	50			50						
										9.08	50			50						
										10.15	50			50						
										10.25				10						

※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

ボーリング柱状図

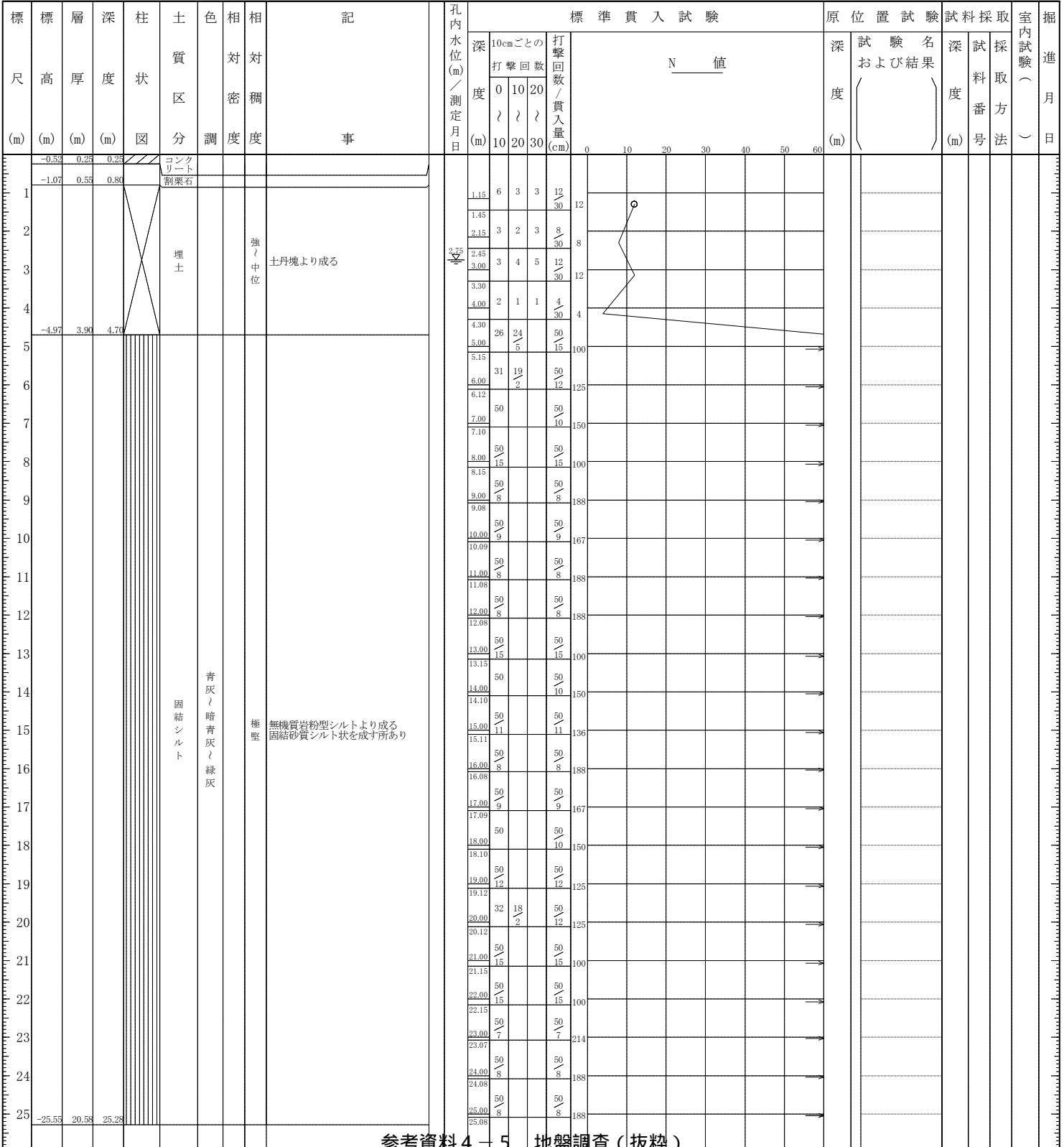
調査名 横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査

ボーリングNo																				
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 8		調査位置	神奈川県横浜市中区新港町						北緯		
発注機関	建設省関東地方建設局営繕部						調査期間	昭和 40年 11月 20日 ~ 40年 11月 24日			東経	
調査業者名	協和地下開発株式会社 電話		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	手塚		
孔口標高	H=-0.27m	角	180° 上 90° 下	方	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	BRS		ハンマー落下用具	
総掘進長	25.28m		度					エンジン		ポンプ		



参考資料4-5 地盤調査(抜粋)

※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

ボーリング柱状図

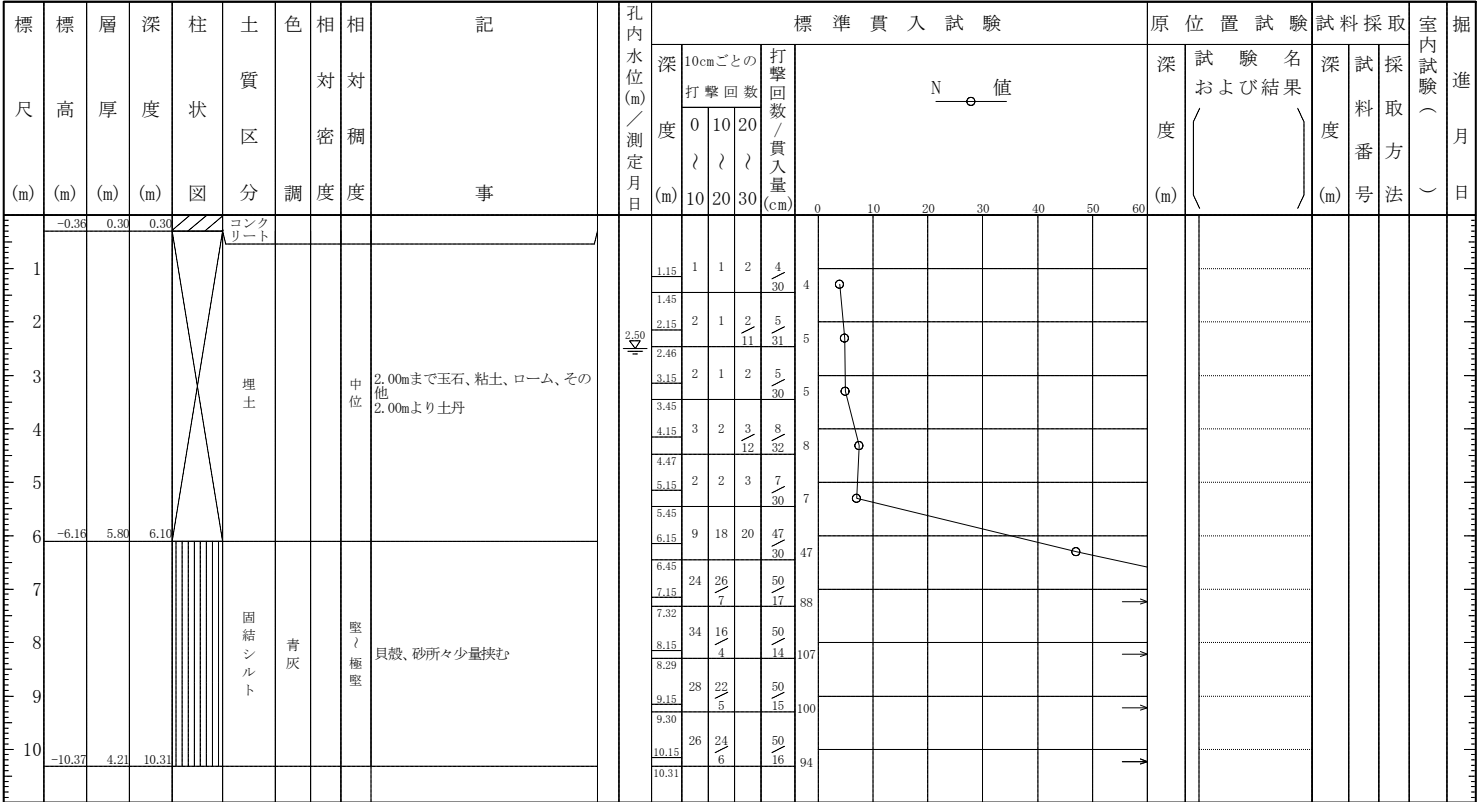
調査名 横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

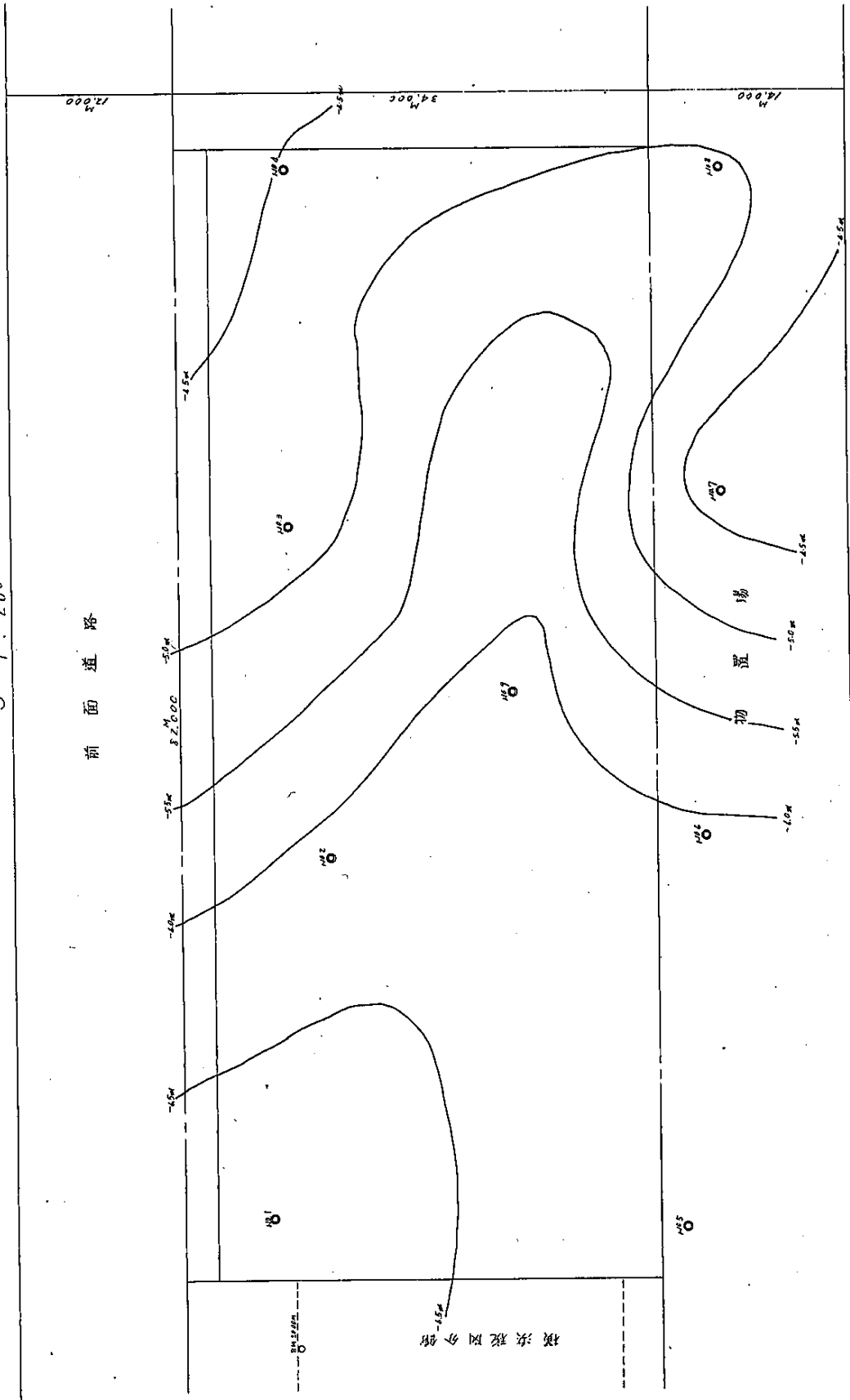
ボーリング名	No. 9		調査位置	神奈川県横浜市中区新港町			北緯	
発注機関	建設省関東地方建設局営繕部			調査期間	昭和 40年 12月 11日 ~ 40年 12月 12日		東経	
調査業者名	協和地下開発株式会社 電話		主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者		
孔口標高	H=-0.06m	角 上 180° 下 90°	方 北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配 鉛直 90° 水平 0°	使用機種 試錐機	ハンマー 落下用具		
総掘進長	10.31m	度	向	配	エンジン	ポンプ		



※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

第3紀J'(固相:μ1)に對する榮線図
 寸 高さは標高に對す

S = 1 : 200



運 河

